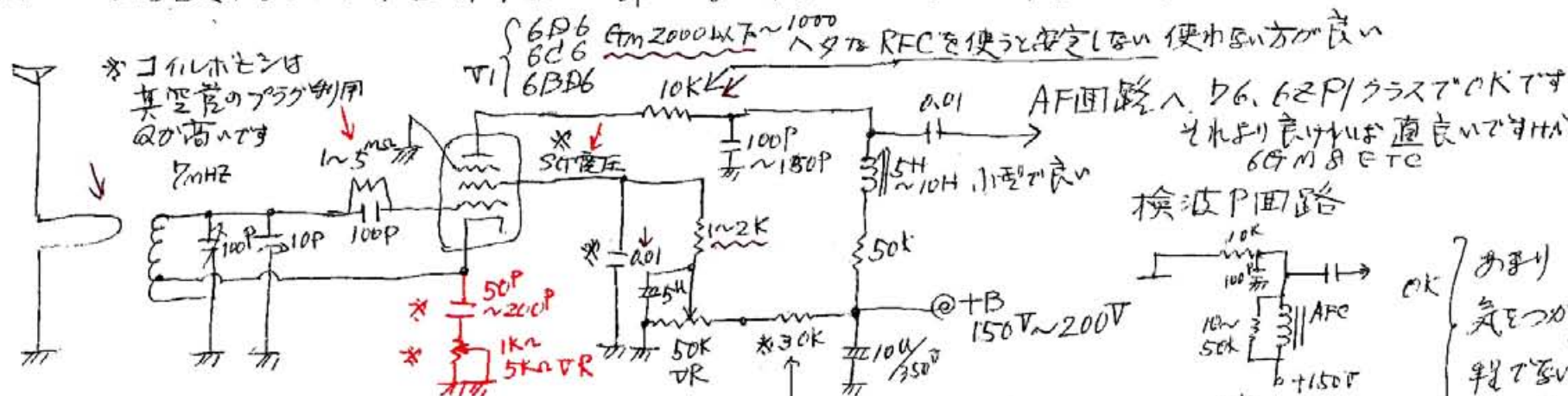
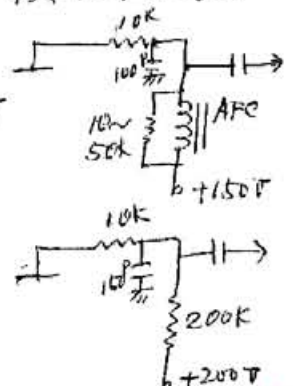


「今回の新しいJA1HU方式のオートゲイン方式の回路」アマチュアはカムシヤラでもよいとX.Y.X.Y.インジカシヤデス
 ナンテコタナイ。れた2個の部品が検波管のカソードとブラサがタレ4の事の回路ですわ
 特にSSB受信時両生調整が楽になり伝令が良くなると思ひます。



検波P回路



OK
 あり
 気つかう
 程でよい
 *抵抗は
 十分いける

* High G. の管を使てて前よりケツパレエリケ = 十分良
 * ヘタナトV-1より O-T-1の方が
 感度が良い時が多い。

H27-10-22.

JA1HU

伊藤 俊次郎 述

アンテナ
 結合は
 極々粗
 結合は
 粗い
 事
 和は
 スッ
 1T(1巻)
 です
 それも
 90°は

①カソード
 クップは
 最初ピー
 なる要
 して自動
 スタート
 SSB受信
 してカソ
 のCR調整
 クップ調
 SG管を
 根気よく
 感度と操
 作性を良
 好にする

1~5m
 要調整
 5m以下
 必要なら
 調整する
 5~10m

* 0.01uF 1~2k
 大抵
 1kの時
 大事
 * SG管
 参考例
 Gmが2000以下の場合
 15~20V位 (6CB)
 30~40V位 (6BX6)

両方の充分調整が
 スタートのポイント
 調整しながら
 調整が大事

→ RFI IF2のスーパー
 感度が良くなる